



今月の題字

山崎 寛奈ちゃん
(大浦小3年)

町のわだい

轟木小の児童が田植え体験 豊作を願い一株一株丁寧に

5月11日、轟木小学校（山根^{ようこ}洋子校長・児童54人）では、子供たちに農業の大切さを知ってもらおうと全校児童による田植え体験が行われました。地域の農家の皆さんに手ほどきを受けながら、はだしで作業に取り組む子供たち。手足を泥まみれにしながらも、豊作を願い一株一株丁寧にもち米の苗を植え込みました。同校ではこの後も草刈りなどの手入れを続け、秋には稲刈りと脱穀を行う予定。10月に開かれる「とどろき祭り」では地域住民を招いてもちを振る舞うことになっています。



岩手町^{がま}がマリン・ツーリズムを利用 漁業を通じ食の大切さ学ぶ

5月13日、川口中学校（岩手町）の2年生31人が学習旅行の一環として本町を訪れ、漁業体験学習を行いました。同校を受け入れたのは、漁業体験の機会を提供し生産者と消費者の交流を図るため町内の漁業者などで組織するマリン・ツーリズム山田（菊地^{きくち}和三会長・会員8人）の皆さん。この日の学習ではカキの耳吊り作業のほか、養殖いかだの見学を行いました。生徒たちは漁船に乗り込み、初めて見る養殖場を興味深そうに見学しながら、日本人の食生活と文化に欠かせない海と漁業の役割を肌で感じていました。

ライフジャケット推進員を委嘱 着用率100%へ意欲燃やす

5月12日、町内初となるライフジャケット着用推進員（通称ライフガードレディーズ）の委嘱式が山田湾漁業協同組合で行われ、山田湾漁協と大沢漁協の女性部員13人に委嘱状と青いユニフォームが手渡されました。式では釜石海上保安部の榎本^{えのくも} 遼一郎長が「海難事故では本人だけでなく家族もつらい思いをする。家庭を守る皆さんの声掛けが着用率100%につながることを期待する」とあいさつ。推進員を代表して佐藤^{さとう} 豊子さんが「家族や地域の皆さんに呼び掛け、ライフジャケット着用の輪を広げていきたい」と決意を語りました。

